

ネット中傷 人ごとではない

熊本市の学生ボランティア



インターネット上の書き込みをチェックする「KC3」の大学生たち＝2月、熊本市西区の崇城大

「言葉の刃が若い命をぐり割った」。5月下旬、SNS（会員制交流サイト）で誹謗中傷を受けていた女子プロレスラーの木村花さん（26）が亡くなった。SNS上のデマ情報など悪質な書き込みをボランティアで監視している熊本市の大学生たちは「看過できない」と同世代の死に憤りを隠さない。

バランス失う

身勝手な正義

木村さんは、男女6人がシェアハウスで生活する様子を切り取る番組「テラスハウス」に出演。番組内で木村さんは、洗濯機に置いていたプロレス用衣装を縮ませた男性の帽子をはたき落とした。その行為に対し、木村さんのツイッターに「お前が早くいなくなればみんな幸せ」などと攻撃する書き込みが続いた。

「投稿者は一方的に好き勝手に攻撃した。匿名を盾に汚い言葉を使って」

そう話すのは熊本学園大4年の那須裕斗さん。那須さんは大学生でつくるサイバー防犯ボランティア「KC3」のメンバーだ。KC3はサイバー犯罪防止と啓発を目的に2011年、県内大学生により発足。これまで熊本地震発生後のデマ情報や児童ポルノなどを監視し、県警に報告するなどしてきた。現在は約70人で活動。新型コロナウイルスを巡るパトロールでは、感染者とする情報をさらしたり、入院先の病院名を書き込むケースなど後を絶たないという。

誹謗中傷とデマ情報の投稿者に「身勝手な正義感」を感じているという那須さん。「悪意なく、よかれと思って書き込む軽い気持ちから始まり、狭い世界観にとらわれてエスカレートし、最後はバランスを失っているような気がする」。

ネット上では、木村さんを攻撃したとされる加害者への激しい批判も出ている。「懷てて投稿を削除し逃げた人もいるようだ。でも入れ墨のように簡単に消せないのがデジタルタトゥー」と那須さん。拡散し今度は加害者側を一言攻撃する状況が生まれている。

木村さんの死については「守れる命だった。誰か手を差し伸べることができたのではない。決して人ごとではない」。

問題を受け、政府は悪質な投稿者の特定を容易にするための制度改正を検討する意向を示している。KC3メンバーの崇城大4年、藤山翔平さんは「見えない敵から守るために規制が必要」と評価する一方で、「言論や表現の自由が奪われないように考えるべきだ」とも言う。

そして「言葉は薬にも毒にもなる。ネットが悪いのではなくて、使いこなすのが大切」と藤山さんは強調。今後はネットを適切に活用する能力を身に付けることの大切さを、高校生ら若い世代に伝える活動にも取り組むつもりだ。（藤山裕作）

薬にも毒にも適切な活用を

命脅かす投稿 追跡も

熊本学園大商学部の情報科学の講義。ネットは自由に発信できるツールであるが、何でも許されるものではない。表現の自由は守られるべきだが、人命を脅かすような書き込みに対しては、投稿者を追跡できる仕組みも必要になってきているのではないか。